

水源の森を守ろう！ 取り戻そう！

～ 目 次 ～

次の20年に向けて	1	ガールスカウトとのコラボ	6
私たちはなぜ山を買うのか？	2	新会員の声	7
古井銀太郎さんにインタビュー	3	令和6年度活動報告・寄付者紹介	8
植樹祭	5		

次の20年に向けて

理事長 汐満健一

昨年は、この20年間で振り返る1年でした。6月は本会発足以来ご指導をいただいていたエスプレッソ代表取締役の吉野氏に「人と自然が共生する里山づくり」というタイトルで20周年記念講演をしていただき、本会の取組の成果と課題を確認しました。7月に本会の原点の地である設楽町田峯で自然観察会を行い、10月には安城学園グラウンド、池浦西公園、東浦町シーダーハウスを巡り、土地本来の木を混植密植する宮脇方式の植樹によって立派な森林が形成できていることを確認しました。

この20年間の成果と課題をふまえて次の20年に向けて何をなすべきかを考える時に来ています。この20年間で、地球温暖化がさらに進み、地球沸騰化といわれるような危機的な状態になっています。その影響により毎年発生する集中豪雨で土砂災害も多発しています。一方で、豊かな森を取り戻すための様々な取り組みが始まっており、森林荒廃への危機感から森林環境税が制定されました。その中で、下流域住民による森林ボランティア団体としての森を再生する会が何をなすべきでしょうか。

昨年12月に、これまで活動してきた新城市作手の山林を購入しました。この山林は安城から車で1時間強で行くことができ、駐車場やトイレもあるので、多くの下流域住民が森林の現状を学んだり森再生の活動を体験できる場所です。次の20年に向けて、まずこの1年はこの作手の里山のあるべき姿を明確にし、それに向けてのロードマップを作成していきたいと考えています。5月の総会後に作手山林活用法を考えるワークショップを行い、7月には現地で植生調査を行い、里山再生と活用の方向性を考えるワークショップを計画しています。次の20年への大事な一歩となりますので、会員の皆様にはぜひご参加くださいますようよろしくお願いいたします。



私たちはなぜ山を買うのか？

神谷輝幸



森を再生する会では、今年、作手の山(9,606 m)を100万円で購入しました。この山は、もともと会員である小河さん所有の山林でした。10年前から小河さんの希望で間伐、植樹をしてきた山です。昨年、突然、小河さんから、その山を売却したくて不動産会社に依頼した旨の電話が入りました。

早速、理事会を開き、購入手続きに入り、令和5年12月13日、小河剣士さんに山林購入代金の支払いを完了しました。毎年、総会で山林購入費として、300万円計上してきましたが、ようやく実現しました。

森を再生する会4周年記念誌の4ページに書きましたように、「一人1万円出して山を買おう！」の呼びかけに応じて300人以上の方が賛同していただき、300万円以上集まりました。今まで適当な山を探してきましたが、候補地がなくて購入が延び延びになってきたものです。

ここで、もう一度、私たちはなぜ山を買うのか？をまとめてみたいと思います。

森を再生すること

森は今、荒れています。昭和40年代の行過ぎた拡大造林は、適正な間伐が進まず、スギ・ヒノキの山は、荒れ放題となり、大雨が降れば、洪水で、山崩れが各地で起きる状態の山です。これは自然災害というより「人災」です。私たちは、山の7割は、広葉樹の森に戻し、かつての「森に再生」すべきだと考えています。広大な面積の荒れた山を今後、どうしたら再生できるでしょうか？

令和6年度から森林環境税が導入されます

国は、荒れた森を再生するために、令和6年度から国民一人当たり1,000円を税金として徴収します。その税収は、全額が森林環境譲与税として都道府県・市区町村へ譲与されます。しかし、この巨額な資金が目的の「荒れた森を再生するために」適切に使われるか疑問がわきます。第一に、危険な山仕事をする人材の不足です。森林組合が人材供給源として期待されますが、自由化で外材輸入の規制がなくなってから国産材の需要は極端に減りました。山仕事がなくなり、山村から都市部へ人口が流出しました。近くでは、幸田町の森林組合は、解散しました。第二は、製材業も極端に減りました。第三に、国産材をうまく使える大工さんなど職人が減りました。

お金は集めたけれども、有効に使われるかととても心配です。安城市内には山林がありません。そうした自治体にも森林環境譲与税として、すでに安城市にも配分されています。安城市は、初代市長の岡田菊次郎翁が、「水を使う者が自ら水をつくるべきである」というスローガンのもと矢作川水源の根羽村・平山村に山林を購入する運動を始めました。こうした、優れた先人の遺志を継いで森林環境譲与税が水源地の確保に使われることを願ってやみません。

生態系豊かな森の再生に必要なこと

山主の願いは、スギ・ヒノキを育て収入を得ることです。私たちが荒れた山を広葉樹の山にしたいといっても受け付けてもらえません。当然のことです。他人の山林では意見の相違から、トラブルを抱え込むこととなります。生態系豊かな森の再生をめざすなら、自分たちの山を持つしかないと思います。私たちが購入した山での活動を発信基地にして森を再生することの意義を伝えたいのです。

山を購入することに賛同していただいた 300 人を超す人の意志に心を込めて。森を再生する会の活動は、小さな活動ですが、理想を高く掲げて進めば大きな活動になるのです！

作手山は里山として活用できる

今回購入した作手の山は、安城市からもアクセスがよく、里山として利用できる楽しい山です。「ふるさとの木によるふるさとの森づくり」を基本とし里山としての恵みを味わっていきましょう。山椒が植えてあり、シキビ(シキミ)も自生しており、仏花として利用できます。入り口にはワラビが生えており、摘んで帰り、夕食の一品に添えたら食卓がにぎわうでしょう。クロモジを植え、間伐したヒノキを風呂に入れ山の香りを味わいましょう。麓には、山からしみ出た、生まれたての水が流れています。この水を汲んでお茶を入れ、ご飯を炊いたら、都会の汚れた水と違う味が味わえるでしょう。渋柿を植えて、干し柿をつくる。フキを植えてフキノトウの天ぷらを味わう、等々。

みんなで楽しい里山をつくっていきましょう！

古井銀太郎さんにインタビュー

インタビューした人 神谷輝幸

齢 94 歳、里山での生活を知る生き字引の古井銀太郎さんに神谷前理事長がインタビューしました。

Q:段戸の自然観察会に参加して一番印象に残ることは何ですか？

A:自分が植えた木と 20 年ぶりに会えて、予想した通りの姿で、大きく育っているのを見て感動しました。



Q:自分が植えた木がよくわかりましたね？

A:気持ちを入れて植えましたから記憶にありますよ。入口に植えたトチノキの木ははっきり覚えています。

Q:宮脇方式で植えたのですが、この方法をどう思われますか？

A: 密植、混植の宮脇方式は間違いなかったことが証明されましたね。競争原理が働いて、より強いものが残る。たくましく育っています。

Q:古井さんはこの活動に最初から参加されて見えますが、何がき

っかけで参加されたのですか？

A: 安城学園で藁草履の作り方を教えていたのですが、そこで出会った等々力さんに誘われて植樹祭に参加したのがきっかけです。

Q:94 歳で実に、お元気ですが、健康の秘訣は？

A:身体と頭をよく使うようにしています。毎日秋葉公園に散歩に出かけたり、雨の日は家の階段を50回上り下りしています。毎日、日記をつけ、天気を一覧表にして記録して楽しんでいます。もう一つは、月に一回くらい、5人くらいの仲間と一緒に西尾市の茶臼山や八面山を登っています。気の合う仲間がいるということはありがたいことですね。お互い気遣いながら、山に登り、日ごろ、お互いに体調のことを気遣ってくれる仲間たちです。

Q: 今後、森を再生する会の活動に参考になることがありましたら教えていただけませんか？

A:今度購入した作手の山は里山として利用できるようにしたらよいと思います。私の母親が育ったところが設楽の山で、よく遊びに行きました。自然に恵まれ、十分生活でき、心豊かに過ごしていました。家族9人を育て、子どもたちを大学まで行かせたのですから。設楽の山は、7割は堅木を植えよ、と言って麓の3割を里山として活用し、上の7割はドングリのなる広葉樹の山でした。だから、シカやイノシシも里に出てきませんでした。母の生まれ育ったところは、まさに里山でした。(そう言って、(次頁の)図を描いて自然を生かした暮らしぶりについて話してくださいました。)

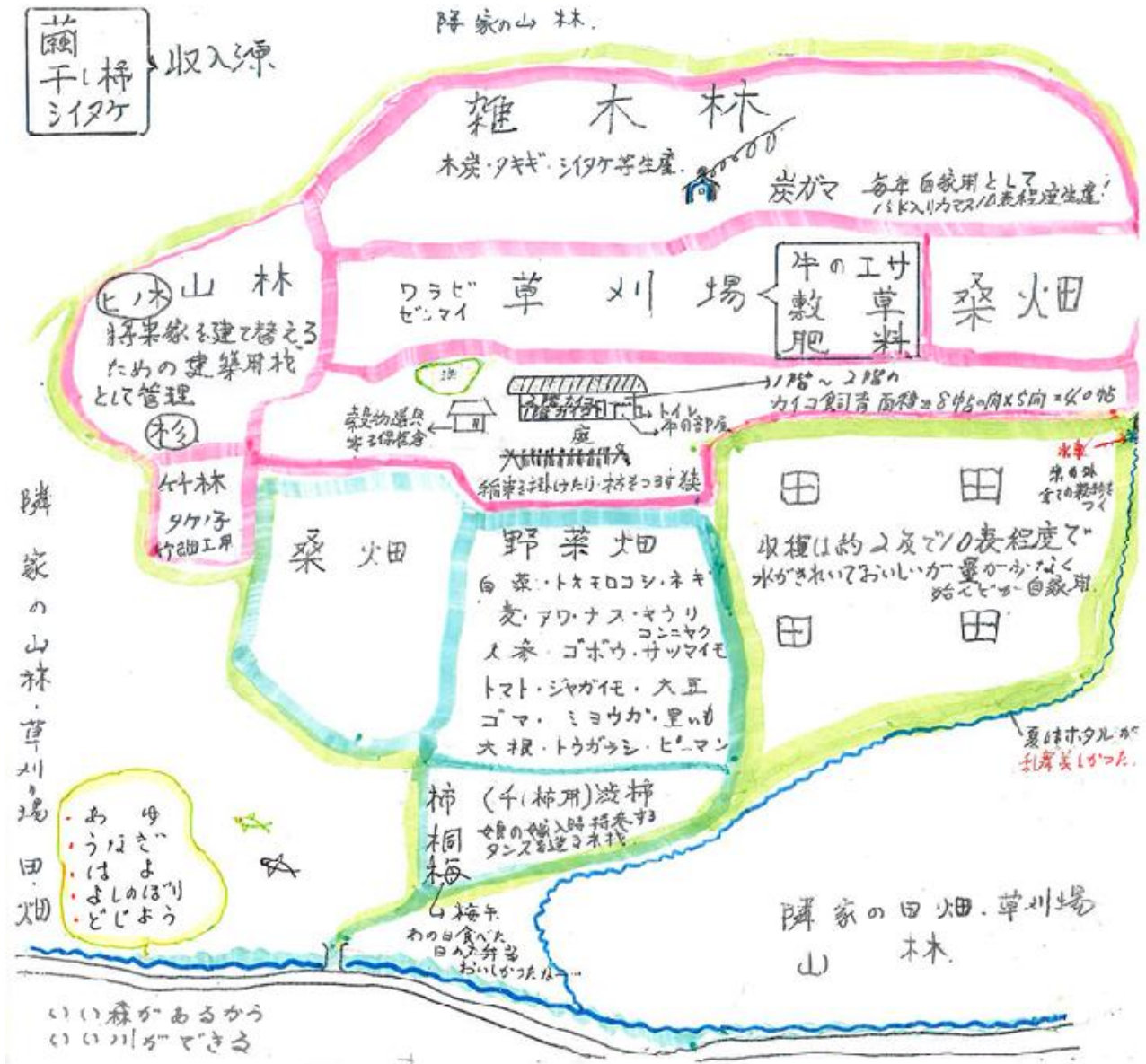
インタビューを終えて

古井銀太郎さんは、今年94歳で、いたって健康です。本年度も、自然観察会、植樹祭には元気に参加されました。これからも植樹祭には参加するつもりだと言っておられました。高齢社会の中で古井銀太郎さんの生き方は私たちの手本です。

年齢を重ねた人は、長い人生の中で、見て、経験してきた知恵がいっぱい詰まっています。若い人は、かないません。里山の話は、うらやましく、味わい深いものでした。

最後に、「金原明善」という人を知っていますか？と言って話をされましたが、それはまた次回に紹介することにします

楽しい良いお話、ありがとうございました。いつまでも元気で長生きしてください。



植樹祭

令和5年11月12日、毎年恒例の植樹祭を開催しました。今回は日陰でもよく育つ葉山椒、この地域で最もポピュラーなアカガシ、赤っぽい木肌が特徴のウリハダカエデ、紅葉が楽しみ大きくなればメイプルシロップも取れるイタヤカエデを植えました。安城市役所障害福祉課の皆さんに市役所の明るい話題作りとして参加していただきました。森林整備に携わるのは初めての若い皆さんの感想を紹介します。



- ・ 今回初めて植樹を体験しましたが、森における木の役割について勉強になったのと同時に、木に対する愛着が高まりました。今回植えた木が大木になって森を守ってくれることを願っています。
- ・ 清々しい気持ちになりました。充実した休日の過ごし方でした。環境、自然について考える機会になりました。植樹を初めて経験できてよかったです。食事でも大変おいしかったです。ありがとうございました。
- ・ 自分たちの住んでいる安城は山が無いので、あまり感じる事はなかったが、自然に触れながら体験できて良かったです。達成感を味わえました。用意して頂いた豚汁等おいしかったです。

次に、豚汁を振る舞ってくださった古居敬子さんの植樹祭への想いを紹介します。

私は、植樹当日は裏方にまわり、昼食作りの担当を引き受けました。植樹をした人たちが作業の疲れを癒やしてもらえるように豚汁を、心を込めて作りました。食材は私たち「グリーンそう」のメンバーが自然栽培で作った里芋などを使いました。自然栽培は山で育つ木々が肥料も消毒もやらないのにたくましく育つのを観察していて畑でもできるはずだと、今私たちは野菜を作っています。自然栽培で作った野菜を食べていれば健康な生活を送れるはずですよ。そのことも知ってもらいたくて。



イベント会場の周りは、広葉樹の葉っぱが作った新鮮な酸素が体の中に入っていきます。会場の周りには山の湧き水が流れ出しています。生まれたての水を使って飲み水や調理に利用もできます。下流に流れていくにしたがって汚れていきますが、ここでは、空気も水も産まれたて、清らかなままです。この自然の恵みを、ぜひ味わって帰ってもらいたいと思いました。

食事は、私たちが準備した豚汁、バナナと、渡辺一二三さんが準備してくださったおにぎり、モツ煮、ちらしずし等、美味しい料理に舌鼓を打ち、食事をしながら楽しい時間が過ぎました。笛や太鼓や歌等々が入れば、祭り気分で盛り上がり、「植樹祭」の祭り気分が演出できることでしょうか。これは又、来年度以降の楽しみに！

ガールスカウトとのコラボ

昨年度は、ガールスカウト愛知県第43団シニア部門の皆さんが50周年の記念事業として環境保護をテーマに取り組み、森を再生する会も趣旨に賛同して協力しました。

12月10日『地球の復元に向けて』を観る会は、過酷な自然破壊に対して、自然の復元力を発揮できるように取り組む人間の姿を描くドキュメンタリーで、森の再生に取り組む私たちの想いを代弁してくれる良

作でした。

3月23日はデイキャンプ「里山の森づくり」を共催しました。このイベントは加藤由紀子さんが紹介します。



朝方より強い雨が降り続けているのできっと中止だと思い、ゆっくりと犬の散歩そして朝食。7時15分、中止のメールが入らずあわてて雨具・長靴などの支度をして集合場所へ。

3人がカッパを着て自転車で集合場所へ。「わあ、この大振りの雨の中、家族に送ってもらわずなんとしっかりした生徒だろう」と感心するとともに、ガールスカウトの子ども達は芯がしっかりしているなあと思いました。

バスに乗車して別府リーダーの第一声が「この雨を楽しみましょう」と、そして今日の流れと自己紹介(ニックネーム付きでもしろうい)となごやかに進行する。

途中ミツマタ群生地を見学、小原村からの移植で広範囲に咲いているが雨のため遠慮して咲いているように見えました。

作手高山に到着して薪ストーブとスウェーデントーチに点火。森再生の私たちにも初めての試み。チャコールを砕いて隙間に入れるが苦戦。それでも4本のトーチがゆっくりと燃え出し寒い雨の中暖をくれる。「ごとの代わりにガールスカウトは石を載せてやかんの湯を沸かすんだよね!」と、これぞある物で知恵を出し利用する精神。

丸太橋は8本のヒノキを並べ、表裏にカスガイを打つ。皆で意見を言い合いながらも順番に手際よくトントンと瞬く間に完成する。雨で土手がぬかるんでいるためか丸太橋はぐっと定置する。

お昼は暖かい豚汁とおにぎりをいただく。おいしかったです。

今回の行事で別府さんたちはガールスカウトを卒業するとのことで記念の植樹をする。クヌギのドングリから育てた苗木スクスク育ってほしいです。

豊かな森づくりを目標としている森を再生する会と環境、森と人との共生等今後とも一緒に考え行動を共にしてほしいと思います。別府さんたちは「スクラム」の名で今後も活動を続けるとのこと。今後のご活躍をお祈りします。

新会員の声

山本丈夫と申します。名古屋市緑区在住、安城市住吉町にて自営業を行っております。生まれは昭和36年(1961年)、出身は岡山県です。

岡山県は中国地方の南東部に位置し東は兵庫県、西は広島県、北は鳥取県、南は瀬戸内海をはさんで香川県と隣接しています。この中国山地と瀬戸内海の間位置する片田舎の鏡野町に生まれ高校を卒業するまで暮らす。山、森などの出会いは幼少期、祖父母に連れられ檜の植林、炭焼き、薪集め等の手伝いを行っていたことを思い出します。今では、山での軽作業、山でのレジャーとても楽しく感じます。以下、小生の想いを綴ってみました。

私にとって森、山、木は気持ちを支える一部であり各地に出かけて見る山、森の感覚は同じ山、森であっても心の持ち方が違うのは当然です。

外出をして山、森に入ると本当に気持ち良くいられ、落ち着きます。山を歩いている景色が良かったり、美しく手入れをされた森林、山があるとゆっくりできれば本当に良いと思います。



多くの人にとっては、日常の喧騒とかけ離れた世界にどっぷり浸かり、柔らかい光、温度と湿度、遠くから聞こえてくる鳥の鳴き声、沢のせせらぎの音、花や実、カサコソと落葉を踏む音、森の匂いと澄んだ空気、どれをとっても、人間の本来持っている感性に訴えるものがそこにあるとおもいます。更に加えて、森の木々から出る匂い成分が体に良いと思います、直接的な健康効果はもちろん、精神的にも安らげることにつながっていくのではないかと思います。

「寄らば大樹の陰」という言葉がありますが、若い木より古木、大樹が林立している所が落ち着けるように感じます。又、光が入ることによって上層木や中間層を占める樹々、そして低木がバランスよく配置されている森林ならば、いっそう安らいだ気持ちになれると思います。

今後の活動を通じて、森を再生する重要性を共有し、新たな学びとアイデアを得られると思っています。次回の活動も宜しくお願い致します。

～ 令和6年度活動予定 ～

5月18日(土)10:00 総会
(総会終了後里山活用ワークショップ)
6月1日(土)8:00 作手マップ作り
7月28日(日)8:30
里山活用ワークショップ in 作手
10月27日(日)8:30 植樹祭
定例活動日:5～11月第3土曜日8:00
※総会は市民活動センター、総会以外は JA 安祥支店集合。変更の可能性があるので事務局にご確認ください。

～ 寄付者紹介 ～

遠山松枝様 2万円(山林購入資金として)
坂田成夫様 1万円(山林購入資金として)
竹内久代様 1万円(20周年記念誌として)
ご寄付いただき、ありがとうございました。

インスタグラムで活動報告
しています。

